

執筆者紹介 (掲載順)

- 執筆者 ①所属と職位、②専門分野、③主な担当科目、
④教育・研究業績、地域貢献などの紹介
- David Williams ①観光学部観光学科 教授
②観光社会学、観光気象
③English for Tourism I、II、国際観光 IV、観光ゼミナール I、II
④Asia Pacific Tourism Association (APTA), [Familiarity of Tourist Destinations in Japan Among Foreign Nationals], 2019 Proceedings of 25th Asia Pacific Tourism Association Conference, Da Nang, Vietnam
- 于 航 ①観光学部観光学科 准教授
②観光地域論、インバウンド観光
③ヘルスツーリズム、観光地理概論、観光まちづくり、フィールド基礎演習、海外研修
④所属学会：日本観光研究学会。日本温泉地域学会。日本温泉科学会。
代表論文：「統合型リゾート（IR）に係る SR 観点からの考察—マカオにおける統合リゾート（IR）開発の社会的影響を例として—」（『城西国際大学紀要』第 29 巻，第 6 号、2021 年）。「千葉県鴨川市における地域公共交通の利用現況及びインバウンド観光向けのショートトリップ展開について」（『城西国際大学紀要』第 28 巻，第 6 号、2020 年）。「外国人目線から見た東北スノーコンテンツ魅力に関する一考察」（『城西国際大学紀要』第 26 巻，第 6 号（観光学部）、2018 年）など。
- 姜 東 星 ①観光学部観光学科 助教
②比較文化・女性学
③中国語、観光ゼミナール、海外研修
④日本社会文学会。日本中国文化交流協会。訳書『高等教育とはいかにあるべきか』（共訳、学校法人城西大学出版会、2017 年）、批評・翻訳「世界で最も美しい大通り」（『城西国際大学紀要』第 26 巻第 6 号、2018 年）、研究ノート「長崎の記憶遺産の研究—林京子の文学を読む視座に」（『城西国際大学紀要』第 27 巻第 6 号、2019 年）、「文学が促す温泉のまちづくり—『城の崎にて』の精神性を掘り起こす」（『城西国際大学紀要』第 29 巻第 6 号、2021 年）。
- 山本 剛 ①観光学部観光学科 助教
②観光学
③観光実務基礎 a・b、フィールドワーク基礎演習 c・d、旅行ビジネス、キャリア形成 c～g、インターンシップ（国内）など
④日本観光研究学会。第 33 回 日本観光研究学会全国大会研究発表会「旅行形態別に見る旅行者の観光動向に関する研究～千葉県南房総地域を

事例に～」(2018) ビジネスクリエイター研究学会。第9回ホスピタリティマネジメント研究会「ホスピタリティ価値の視点からとらえる観光客のニーズと観光振興施策とは」(2018) ビジネスクリエイター研究学会第18回報告「『訪日外国人の個人旅行需要による地方創生の実現と既存公共交通ネットワーク活用の研究』(2017)」。旅行業・人材紹介業・公共交通(路線バス)業での勤務経験をもとに、「産学共同プロジェクト」を企画・運営する実務家教員であり、2019年6月には観光庁による「産学連携による観光産業の実務人材確保・育成事業 先進的な実践授業事例」にピックアップされる。2019年12月には、旅行会社クラブツーリズムと南房総地区に大きな被害を出した台風15号の観光復興企画として「お座敷列車『華』で行く がんばろう東日本」を企画運営、2021年4月には業界アワードである「鉄旅オブザイヤー2020」にて同ツアーが「大学と連携し、これからの観光業を担う人材育成の視点を取り入れた企画」であることから「国土交通省鉄道局長賞」を受賞。その他、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)千葉支社、株式会社農協観光、日産自動車(日産プリンス千葉販売株式会社)など数々の民間企業との産学共同コラボレーション企画を次々に企画・運営・実施し、参加客からの高い満足度と観光人材育成の実績を積み重ねている。

中沢信一郎

- ①観光学部観光学科 教授
- ②建築史・意匠論
- ③ユニバーサルツーリズム・観光ゼミナール・社会学概論(現代社会)・世界地誌・政治経済(経済学概論)・世界の中の日本・観光情報リテラシー
- ④2021年度は、担当ゼミの開講2年目となり、これで3年生と4年生のそれぞれにゼミ生がいることになった。ゼミでは近年ビジネス上の新しい考え方として注目されている「デザイン思考」をベースとした。ゼミ生各人が卒業制作に向けた習作を個人的に進めていくことと、複数のゼミ生によるグループをゆるやかに形成しながらデザインを進めていくという双方の知的探究の場を提供している。新たな授業科目として「政治経済」と「観光情報リテラシー」を担当。前者はGoogle Classroomを活用し、予習・復習の「みえる化」等を進め、後者は全学的に導入されたMicrosoft 365の利活用を概念的に捉える術を講じた。この他、「社会学概論(現代社会)」・「世界地誌」・「世界の中の日本」・「ユニバーサルツーリズム」を担当し、適宜、持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を講義の機会に紹介した。平和学に立脚した観光学の在り方を探究するために、国内外のSDGsの社会的動向に注目し担当授業科目に反映させた。また、地域貢献の一環として、本年度の「株式会社鴨川観光プラットフォーム」の評議委員として、会合への出席を重ねた。